

令和5年度 第6回 砂川市小中一貫教育推進委員会 会議記録

○日 時 令和6年3月21日(木) 17:30～18:20 (所要時間=50分)

○会 場 砂川市役所 2階 大会議室

○出席者

【委 員】 14人

【教育委員会】 6人

【事務局】 4人

○傍聴者 なし

○議事記録

1. 開 会

2. 挨拶 砂川市小中一貫教育推進委員会会長

3. 報告事項

- ・(1) 特別部会の経過報告

【議事の内容(要旨)】

- ・(1) 特別部会の経過報告

会長 特別部会の経過報告ですが、2月5日開催の前の推進委員会以降の会議内容を各部長から説明をお願いします。

まず、(1)の小学校教育課程部会より報告をお願いします。

委員 2月26日月曜日の本部会は、全教科等の年間指導計画作成と本部会における成果を明らかにすることを重点に進め、「小学校の年間指導計画に令和8年度の開校を見据えて作成を行う」という考えのもと、12月の会議から各学校で分担しながら作成を進めて、より精度を高めるという観点から複数の目で、3月11日を目途に精査し、本日に至ったところです。それから、部会としては、学習スタンダードをもとに、全ての小学校で授業内容を揃えることを今年度目指してきましたが、1年間で基準や目線を揃えて授業を進めることができたことが成果だと確認しました。また、4月には保護者とも学習スタンダードを共有できるように準備をすることができたことも成果と捉えています。次年度は、教育課程ワーキンググループとして再編成され、9年間がつながるという目線を持って、「全体計画」「年間行事予定表」「日課表」の作成などを行うことを確認しました。

会長 只今、小学校教育課程部会より報告がありましたが、質問等ありませんか。それでは、続きまして(2)小学校連携事業部会より報告をお願いします。

委員 2月16日、5校交流会が行われ、交流自体は成功したと捉えています。これまでの交流会とは違い、1日に5年生と6年生の2つの学年がそれぞれ交流しましたが、いずれの学年の子ども達も必要以上に緊張することもなく、5・6年生らしい少し距離を置くような思春期らしさが見られ、これまでの交流の成果と心の成長が感じられるとともに、1回目は運動中心の交流、2回目は交流中心のゲームをしたことが良い結果に結びついたのでと思います。また、先生達も見ているだけではなく、積極的に中に入って交流を促していただき、義務教育学校開校に向けて「子ども達をしっかりと導く」という思いを感じられたのが良かったです。3月1日に1年間の反省を行い、私から「2回行った5校交流会は、子ども達の評価が良かった」という話と「先生達もこのまま子ども達を義務教育学校に導いてください」という話をしました。

会長 只今、小学校連携事業部会より報告がありましたが、質問等ありませんか。それでは、続きまして（3）小中連携事業部会より報告をお願いします。

委員 2月29日木曜日に第5回小中連携事業部会を開催し、4点について、交流・協議をしました。まず、（1）第4回の家庭学習チャレンジ週間における保護者アンケートの結果と児童生徒の取組状況を各校で交流しました。アンケートの回収率は、1校だけ少し下がりましたが、その他の学校は上がっており、家庭学習チャレンジ週間に対する保護者の関心が高まっていることが分かります。一部回答率が下がってしまった原因として、保護者への周知方法と回答方法が変わったため、学校に複数のお子さんが在籍する保護者がそれぞれのお子さんの回答方法が分からずに1人だけ回答して終わってしまっている状況もありましたので、今後、回答方法が分かれば、回収率は上がると思います。取組の姿勢は、前回よりも肯定的な回答が下がっていますが、6から7割の児童生徒が「いつもより意欲的に学習を進められた」という回答をしていることや、各学校の先生方が1年間の取組を通して、学校全体として、家庭学習チャレンジ週間に向かうという姿勢が非常に強まってきたという声も交流の中であることから、ある一定の成果が見られていると部会としては判断しています。目安の時間も前回より下がっていますが、これも市内の6割以上の子どもが目標設定をきちんとして、それに見合う学習を進めていることが分かる結果となっています。保護者の声かけも学校間で多少差はありますが、児童生徒の努力に対しての暖かい眼差し、そして、机に向かう大切さを褒めて認めるという趣旨を多くの保護者が理解していただいていると捉えられる結果となりました。なお、否定的なコメントは、真摯に受け止めながら、保護者にどのように理解を促していくか先生達で交流しながら来年度につなげていきます。

（2）キャリア・パスポートは、令和6年度から統一した形で使っていくとしています。

（3）乗り入れ授業は、今年度と同じ時期に、同じ形で次年度も継続するのが良いという意見がありました。

（4）次年度の展望として、次年度は「小学校連携事業部会」と「小小連携事業部会」が1つになって「学校連携ワーキンググループ」となり、保護者だけではなく子ども達にも家庭学習の取組状況のアンケートを取る中で、保護者の意識と子ども

もの意識の違いを見ながら、取組の充実を図っていきます。

会長 只今、小中連携事業部会より報告がありましたが、質問等ありませんか。
それでは、続きまして（４）の施設建設部会ですが、今年度の業務を既に終えていますので、報告事項は無しとしてよろしいですか。

委員 大丈夫です。

4. 協議事項

- ・（１）砂川版「キャリア・パスポート」について
- ・（２）小学校における各教科の年間指導計画等について
- ・（３）令和５年度砂川市小中一貫教育推進の重点に係る評価について
- ・（４）令和６年度砂川市小中一貫教育推進計画の策定について

【議事の内容（要旨）】

事務局 ・（１）砂川版「キャリア・パスポート」について
「砂川版『キャリア・パスポート』」ですが、今年度、小中連携事業部会における情報交流の中から、現在使用されているキャリア・パスポートの様式やポートフォリオする資料は学校ごとに違いがあることから「市内統一した様式や活用の仕方を定めた方が良い」という議論となり、作成を進めてきました。「キャリア・パスポート本体」「キャリア・パスポート指導資料」「補助資料」と関連する作成物は、第４回の本委員会にて提示させていただきましたが、各学校から意見をいただき、部分的な修正を行いましたので説明します。修正意見としては、「３年生から６年生の様式の子ども達自己評価する部分に目盛りを追加した方が子ども達は戸惑いなく作業ができる」という提案をいただきましたので修正しました。本委員会にて、キャリア・パスポート等が承認されたら、データを各学校にお届けし、次年度から統一様式を使用しながら各学校のキャリア教育を推進していただきたいと思えます。

会長 只今、協議事項（１）の説明がありましたが、質問等ありませんか。それでは、提案のとおり、次年度から「キャリア・パスポート」の取り組みを進めていきます。

事務局 ・（２）小学校における各教科の年間指導計画等について
「小学校における各教科の年間指導計画等について」は、今年度が、次年度から小学校で使用される新しい教科書の採択年度であったことから、令和８年度の義務教育学校開校に向けて、市内小学校における指導計画等の共通化を図る観点から、小学校教育課程部会において、学校ごとに分担をして市内統一版の年間指導計画等を作成しました。２月２６日の第５回小学校教育課程部会において作成を終えた年間指導計画等の確認を行うとともに、校正をする担当教科の分担や内容の最終確認を

行いました。それら全ての作業を終了したことから、本日の委員会にて議案別冊のとおり、教科ごとの「年間指導計画・評価計画」と「単元配当表」を整えて示しています。

会長 只今、協議事項（２）の説明がありました。質問等ありませんか。なければ、今説明があったとおりの内容で承認することとします。

・（３）令和５年度砂川市小中一貫教育推進の重点に係る評価について

事務局 「令和５年度砂川市小中一貫教育推進の重点に係る評価について」は、昨年策定した「砂川市小中一貫教育推進計画」の中で、特に令和５年度に重点的に取り組むと位置付けた事業が１４項目あり、この年度末に、一度振り返って評価し、今後の取組に繋げたいという趣旨です。評価の方法は、誰が見ても分かりやすいシンプルなものにしたいと考え、例えば、（１）①を見ると、事業は「全国学力学習状況調査結果の公表」で、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ、４段階のうちＡの「大変良い」、実施状況は「砂川市ホームページにおいて、令和５年度全国学力・学習状況調査結果を公表した。また、調査結果に併せて『分析』と『授業改善の視点』も掲載した」、今後の方向性は「引き続き同様に実施する」です。以下、全ての事業をこの形で評価し、手を付けていなかった事業はなく、１４事業全てがＡまたはＢの評価としています。また、今後の方向性では、多くの事業で「引き続き同様に実施する」としていますが、（１）③「学習スタイルの平準化・砂川スタンダード」は、「保護者版を配布して保護者にもご理解いただくとともに、中学校の学習指導にも汎用させる」といったように拡充する方向の事業もあり、一方で縮小や廃止する事業はありません。１４の事業は全体として、良い評価をしていますが、中には、学校ごと、または学級ごとに実施状況に差がある事業、或いは改善の余地や課題がある事業もあると思います。今年度は初めての評価なので、このようにまとめましたが、来年度以降に向けては、評価の方法も検討していきたいと考えていますので、意見をいただければと思います。

会長 只今、協議事項（３）の説明がありました。質問等ありませんか。それでは、令和５年度の重点に係る評価は説明のとおりとします。

・（４）令和６年度砂川市小中一貫教育推進計画の策定について

事務局 「令和６年度砂川市小中一貫教育推進計画の策定について」は、本市における小中一貫教育の推進、充実を図るため、小中一貫教育の実践内容や年次計画、年度の重点などを示したものであり、昨年度策定されたものを見直し、小中一貫教育の更なる充実・深化をねらうものです。まず、「策定にあたって」は、小中一貫教育が制度化されるに至った経過と砂川市の実状に触れ、令和４年４月に策定した「砂川市義務教育学校基本構想」を踏まえ、砂川市として小中一貫教育を実現するためにすべきことや、より発展的な小中一貫教育を行うための考え方を明らかにした「砂川市小中一貫教育推進計画」を策定したこと、及び、今年度から５つのワーキンググループにおいて取組の充実を図りながら、令和７年度から本市における小中一貫教育を本格的に実施していくための道筋を描いていくことを記載しています。「小中

一貫教育の目的」は、9年間を見据え、子どもの発達の段階に応じたきめ細かい指導と、小学校と中学校が連携・協力して学習面や生活面での切れ目のない支援にあたり、本市では「(1) 主体的・対話的で深い学びを通して「生きる力」を育むための資質・能力の育成」「(2) 9年間を見通したカリキュラムの編成による学習指導の改善から、児童生徒の学力の向上」「(3) 小学校から中学校への接続を円滑にし、環境の変化により起こる、いわゆる『中1ギャップ』などの解消」「(4) 様々な課題を抱える児童生徒に対し、9年間を見据えた切れ目のない指導・支援を行う生徒指導体制の充実」「(5) 将来を見据えて砂川市を支える人づくりと共生社会をつくるための素地づくり」を目指して取組を進めるとしました。また「砂川市が考える小中一貫教育」は、これまでの教育に小・中学校間の連携はあったものの、中学校進学時の環境の変化や不安などが大きく、いわゆる「中1ギャップ」の段差を感じる生徒達もいましたので、義務教育9年間で1stステージ（1年生～4年生）、2ndステージ（5年生～7年生）、3rdステージ（8年生～9年生）の3つのブロックを設けて、「心身の発達の時期と変化」「学力形成の特質」「生徒指導上の課題」の3点を挙げ、それぞれの課題を記載しています。義務教育9年間で3つのブロックに分け、9年間を見通した系統性・連続性のある小中一貫教育を行うことが、本市が進める小中一貫教育の考え方であり、小学校1年生から中学校3年生までの全ての児童生徒が、それぞれの段階に応じた指導を受けられる環境をつくるためには、次の3点が重要になってくると考えており、1点目は「小・中学校におけるそれぞれの発達の段階に応じた『目指す子ども像』を小・中学校に関わる全ての人（教職員、保護者、地域の方々）が共有するとともに、小・中学校の9年間でひとまとまりと捉えた同じ教育目標（義務教育修了段階で身に付けさせたい力）を設定すること」、2点目は「校種間の円滑な接続と連携が重視されていることから、小・中学校の学習指導要領の趣旨を十分に踏まえ、小学校1年生から中学校3年生まで連続的に成長する子どもの姿を見通しながら、9年間一貫した系統的な教育課程を編成すること」、3点目は「学校生活の中で指導にあたる教職員が、義務教育9年間及びその前後にある幼児教育、高等学校教育における教育活動も理解し、教育実践に取り組むこと」です。「教育理念」「目指す子ども像」「小中一貫教育の基本的な教育方針」「小中一貫教育の実践内容」は、令和4年4月に策定した「砂川市義務教育学校基本構想」で示している内容となっておりますが、今年度、現在在学中の児童生徒及び次年度就学する児童の保護者を対象に取ったアンケートをもとに設定した本市における小中一貫教育の推進を通して「育成を目指す資質・能力」を新たに追記し、「砂川市小中一貫教育全体構想図」も「育成を目指す資質・能力」を明らかにしています。「小中一貫教育推進の年次計画」は、令和8年度の義務教育学校の開校に向け、令和5年度から令和7年度の3か年において、全ての学校において共通して取り組む実践内容を整理し、記載しています。これらが、市内全校が統一的に取り組むこと、さらに、令和6年度から市内全ての学校が準備校としての指定を受ける北海道教育委員会の「“子どもたちの未来を拓く” 学びのトランスフォーメーション推進事業 学校種間連携サポート事業」における実践を通して、令和8年度の義務教育学校のスムーズな開校につなげていきたいと考えています。推進内容の具体は、大きく6つのカテゴリに整理し、基礎学力の定着と学習習慣の向上、評価分析では、「オンラインによる授業参観を通して、教職員が主体的に研修できる機会の

設定」「学習スタイルの統一による小中切れ目のない学習指導の実現」「『家庭学習チャレンジ週間』による家庭学習の習慣の定着を目指す取組」「義務教育9年間を見通した各教科学習内容系統表の作成」「小中連携した英語学習の実施」などに取り組んでいくこととしています。「砂川市GIGAスクール構想の推進」では、「一人一台端末の活用スキル系統表の作成」など、タブレット端末の活用について学校間の段差がなくなるよう取組を進めていくこととしています。「不登校等の生徒指導上の諸課題の減少と未然防止」では、「スクリーニングを活用した組織的な児童生徒理解の促進と教育相談体制の確立」「一人一台端末を活用した、不登校児童生徒へのオンラインによる学習支援の実施」などに取り組んでいくこととしています。

「幼保・小中（6校）の連携」では、「中1不安解消を目的とした模擬授業体験、学校説明会等の取組」「小中合同研修会の実施」「幼・保・小のつながりを意識した特別な配慮を必要とする子どもの円滑な引継ぎ」などに取り組んでいくこととしています。「ふるさと砂川を誇りに思う心の育成」では、「9年間を見通した『キャリア・パスポート』の運用・改善」「9年間を貫く『総合的な学習の時間』のカリキュラム作成」などに取り組んでいくこととしています。「防災教育や安全教育の充実」では、令和8年度から市内の学校は1校となることから「地域と連携した火災、地震時の避難訓練の実施」などの検討を進めていくこととしています。「令和6年度砂川市小中一貫教育推進の重点」ですが、「基礎学力の定着と学習習慣の向上、評価分析」では、特に「オンラインによる授業参観を通して、教職員が主体的に研修できる機会の設定」「学習スタイルの統一による小中切れ目のない学習指導の実現」

「義務教育9年間を見通した各教科学習内容系統表の作成」「砂川市学習スタンダードによる授業改善に向けた『小中合同研修会』の実施」「小中連携した英語学習の実施」に取り組みます。「砂川市GIGAスクール構想の推進」では、特に「対面指導とオンライン教育とを最適に組み合わせた授業改善による学びの質の向上」「一人一台端末の活用スキル系統表の作成」に取り組みます。「不登校等の生徒指導上の諸課題の減少と未然防止」では、特に「スクリーニングを活用した教育相談体制の確立」「一人一台端末を活用した、不登校児童生徒へのオンラインによる学習支援の実施」に取り組みます。「幼保・小中（6校）の連携」では、昨年度、小学校連携事業において取り組んだ合同遠足を継続実施するとともに、小学校5校交流会を4年生まで拡充して実施します。また、小学校2・3年生においても学校間交流を行うこととしています。また、小中連携事業部会において取り組んできた、中学校教員の乗り入れ授業を複数回実施するとともに、小学校1・2年生での「外国語活動」を実施します。また、中学校の入学説明会において、中1不安解消を目的とした模擬授業体験を実施します。「ふるさと砂川を誇りに思う心の育成」では、「9年間を見通した『キャリア・パスポート』の運用・改善」「9年間を貫く『総合的な学習の時間』のカリキュラム作成」に取り組みます。本計画が最終決定された後は、説明した取組を「学校経営ワーキンググループ」「教育課程ワーキンググループ」「研究推進ワーキンググループ」「指導活動ワーキンググループ」「学校連携ワーキンググループ」にて推進することとなります。

会長

只今、協議事項（4）の説明がありましたが、質問等ありませんか。

委員 義務教育学校の開校目的に「中1ギャップ」の解消があり、そのために学習スタンダードの作成や交流会を行い、子ども達の不安は解消されたと思いますが、実際に中学校に進学した時に直面するギャップももちろんあると思います。そこを解消するために、5・6・7年生の2ndステージを設けていると思います。教員がこれからも子ども達に指導したり、接したりしている中で、小学生と中学生とでは多少の接し方の違いがあるということに気が付くと思いますので、乗り入れ授業を行った先生の感想等を聞けると良いと思います。次年度の取り組みとして、乗り入れ授業に参加した教員から小学生を指導した感想を聞けたら良いと思います。

会長 事務局、お願いします。

事務局 小中連携事業部会内では、中学校教員から実際に乗り入れ授業をやった感想等の報告はありましたので、次年度は学校連携ワーキンググループで乗り入れ授業を行った中学校教員の感想等をまとめて報告したいと思います。また、小学校と中学校の教員では子どもへの接し方に違いがあるということで、次年度の夏には、学習課程についての小・中学校間の段差をなくすための小中合同研修会を予定しており、その後、生徒指導に関わる合同研修会を開催するなど戦略的に合同研修会を企画しながら、そういった部分の段差をなくす取組を行いたいと思います。

会長 他、質問等ありませんか。

委員 「砂川市立小学校『学習スタンダード』【保護者版】」に書かれている学校に置いて良い教科書の教科を限定していますが、そこら辺の見解を教えてください。

会長 事務局、お願いします。

事務局 こちらは、小学校教育課程部会にて、実情を交流し、主要教科は家庭学習で使うので持ち帰り、実技系の教科は学校に置いているという傾向が実態としてありましたので、そこに揃えました。

委員 その考え方は変えていく必要があると思います。今後、タブレット端末の持ち帰りも必要になってくるとは思います、「国語」「算数」「社会」「理科」「外国語」の主要教科5科目の教科書と必要に応じてタブレットも持ち帰ると、鞆の重量も重くなりますし、「毎日、5教科勉強する」ということはないと思います。例えば、中学校1年生だったら70分間家庭学習を行います、その70分をプランニングする際に「今日の数学と英語の授業が分からなかったから持って帰って勉強しよう」と思っている中で国語などの他の教科書は必要ありません。これを「スタンダード」として保護者に配られると、「主要5教科が大切で、他の教科は大切ではない」という誤ったメッセージを伝えてしまっているように感じます。子ども達からも「5教科が大事で、それ以外は大事ではないのでしょ」という声を何度も聞いてきて、そういう部分をこれから解消していかなければならないと思うので、教科を限定する表記は今後やめた方が良いと思います。

会長 事務局、お願いします。

事務局 「砂川市立小学校『学習スタンダード』【保護者版】」は、今年度、新たに統一するものとして、各校の実態を考慮し、課題等も洗い出しながらまとめたものですので、こちらの記載でいきたいと思いますが、今後、「毎日タブレット端末を持ち帰って学習に活用する」など家庭学習の方法が変容を見せた場合や、家庭学習チャレンジ週間の反省アンケートでも保護者の皆さんから家庭学習に関わる意見をいただいていますので、それらを加味しながら「学校に置いていって良いもの」と「家庭学習の進め方」をセットで考えて、次年度以降も検討していきたいと思います。

委員 いますぐの変更を求めたわけではなく、今後の問題提起の1つになれば良いと思って意見をさせていただきましたので、回答どおりで良いと思います。

会長 他、意見等ありませんか。それでは、案のとおり計画を決定することとします。

5. その他

- ・(1) 令和6年度における砂川市小中一貫教育推進委員会の委員及び各ワーキンググループの構成員について

【議事の内容（要旨）】

- ・(1) 令和6年度における砂川市小中一貫教育推進委員会の委員及び各ワーキンググループの構成員について

会長 「令和6年度における砂川市小中一貫教育推進委員会の委員及び各ワーキンググループの構成員について」事務局より説明をお願いします。

事務局 前回の小中一貫教育推進委員会では、令和6年度においても推進委員会を引き続き設置するとともに、現在の4つの特別部会を5つのワーキンググループに再編することが確認されました。早めに体制を整えて具体的な取組を進めるためにも、4月初めには各小・中学校に構成員の推薦等を依頼しますので、人選等の準備をお願いします。なお、推進委員会の会長と副会長、ワーキンググループのアドバイザーとグループ長につきましては、校長先生・教頭先生に担っていただく役割ですので、これは事務局より調整・相談をさせていただきます。

会長 只今、その他の(1)の説明がありましたが、質問等ありませんか。おそらく新年度の体制を検討している最中だと思うので、ワーキンググループに入る教員も決めているところだと思いますが、よろしくをお願いします。以上で予定されていた案件は全て終了しましたが、皆さんから何か話し合っておきたいことなどありませんか。事務局、お願いします。

事務局

次回の日程ですが、次回は令和6年度の第1回目になり、日程はまだ決まっていますが、できれば4月中には開催したいと思います。後日、日程調整をさせていただきますので、お願いします。

会長

年度が変わってからの1回目の会議を4月中に開催したいということで、日程が決まり次第連絡が来るとのことです。皆さんより他になれば以上で閉会とさせていただきますが、よろしいですか。それでは以上を持ちまして、第6回小中一貫教育推進委員会を閉会させていただきます。皆さん、大変お疲れ様でした。

以 上